



真宗大谷派【東本願寺】光西寺 発行
 雲仙市愛野町甲 271
 ☎ 0957-36-0103

お寺のホームページ
 アクセスお待ちしております！

坊守のつぶやき

10月に入り少しコロナも落ち着いたなか、久しぶりに本屋さんへ行き、面白い本を見つけました。『料理と利他』という、料理研究家の土井善晴さんと政治学者の中島岳志さんのオンライン対談本です。中島岳志さんは親鸞聖人についても深く学んでおられる方で、『歎異抄』に出てくる「聖道の慈悲」と「浄土の慈悲」という言葉についてお話されていました。

聖道の慈悲とは、困った人がいれば助けたいとか、良いことをしよう、という慈悲=利他のことですが、それに対して浄土の慈悲というものがあって、それは阿弥陀様からやってくる力によってなされる慈悲というものがある、と。私たちが慈悲=利他ということを考える時には、良いことをしよう、良い人間になろうという意識はたらくけども、親鸞さんの考えの中には、それこそが実は苦しみのもとだ、人間がとらわれているはからいを問題視している、というのです。

それをうけて土井善晴さんは、料理の利他というものは作る人と食べる人の間に生まれるもの、と言われました。食べる人の健康を思って料理する。作る人が食べる人に利他する、ということですが、一方で、食べる人の姿を見て、作る人は食べる人から受け取っているものがある。けれども、料理をすることで、「ありがとう」という言葉をもらって満足していくと、やがて「ありがとう」と言ってもらいたいというはからいの世界に取り込まれてしまう。本当の利他は、「ありがとう」と言われて満足する世界を超えているはずです。

そんな対談がありました。日々の料理のなかにも親鸞聖人の教えにつながるものがあるんだと、感動しました。「ありがとう」、「おいしいね」が聞きたくて頑張っている私があります。まだまだ自力の思いが強い人間だなあとつくづく感じています。

時には、料理も肩の力を抜き、素材におまかせでいいですね。

宗祖親鸞聖人御命日定例 ごあんない

2021年10月28日(木) 午前9時30分から12時まで
 夜 8時から9時30分まで

おてらまいりはココロのストレッチ！